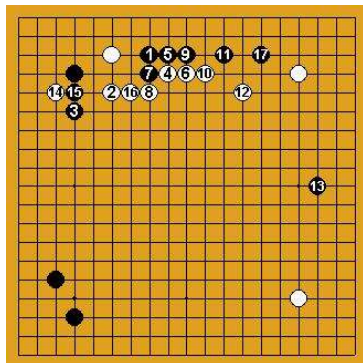
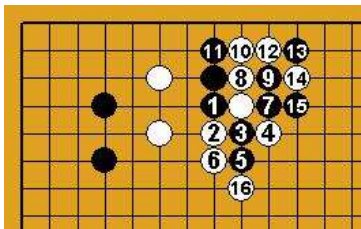


星に小ケイマガカリ 一間バサミ3



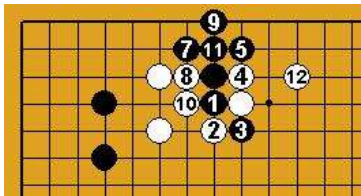
今回から次の定石「基本図」に移ります。お馴染みの定石ですが中級の方にはちょっと難しいかもしれません。しかし、このレベルを超えないと上へ進めません。挑戦して下さい。節目節目で大きな変化があり、周囲の状況でそのどれを採るかの判断もあります。定石を覚えるというよりも、なぜその変化が必然なのかを理解することがより重要です。まずは基本図です。①とハサムには右上隅に黒石が言うこととはないので、互先を想定して白石を配しました。②③から④カケがこの定石の命です。見るからに格好のよい手ですね。⑤から⑰までが、この局面での双方最善と思われる進行です。④を見て誰しも思うことは、「こんな格好のよい手を許してなるものか、デギル手はないものか？」です。この発想は正常です。石が接触してきた場合、まず最初に最強の手から考えるのです。それがダメなら次善の手、

それがダメなら・・・と言う順番です。最初は無
難にワカレる手をヨムと、結局それになってしまい
ます。



変化図 1 - 1

そこで⑤ではの①②③デギリをまず考えます。しか
しご覧の通りシチョウが悪いので、成立しないこと
が分かりました。シチョウが黒よい場合はどうなの
か？



変化図 1 - 2

⑥キリコミが好手で、やはり黒うまく行きません。
しかしシチョウがよいことに加えて右上方面にも黒
石があるような場合には、事情が一変します。そも
そも④カケが無理となり、デギリがそれを咎めるこ
とになるのです。